



# はこべら

学校教育目標：豊かな心を持ち、心身ともにたくましく、自ら学ぶ子どもの育成

響かせよう 響き合おう ～今に響け 未来に響け～

時津町立時津東小学校 学校だより 第10号

令和6年12月24日 文責：校長 村井 宏之

## 「EAST+」で二学期を振り返る



令和六年度の二学期も本日終業式を迎えました。保護者の皆様、地域の皆様には日ごろから本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

二学期は、日々の学習に加え、宿泊学習、修学旅行、はこべら祭り等、様々な行事がありました。これらを通して、子供たち一人一人、学級、学年、学校がそれぞれ大きく成長できたように思います。活気があり、優しく、たくましくなっています。

二学期の終業式では、恒例の校長のインタビューを行いました。東小は左にある「EAST+」で学習の振り返りをしているので、二学期の振り返りも「EAST+」に合わせて子供たちの振り返りの声を聞きました。一部を紹介します。

### EAST+

- いとおもった考え
- すんでがんばったこと
- とっておきたい技
- +今日の学び方

### 2学期のEAST+

- いいところ（学級・友達）
- すんでがんばったこと
- とできるようになったこと
- +自分で決めたこと・取り組んだこと

#### いいところ（学級・友達）

- ・私の学級は、問題がわからないときに友達が教えてくれる。
- ・私の学級は、あいさつや返事がよくできる。

#### すんでがんばったこと

- ・漢字を覚えた。
- ・学習の振り返りを頑張った。
- ・関係図と式を結び付けてわかりやすく発表できた。
- ・平和について深く考えることができた。
- ・算数の授業で学んだことを自学でまとめてわかりやすくした。
- ・算数で、前に勉強したことを生かして考えた。

- ・総合で取り組んでいる花のお世話で、水やりを続けるなど頑張った。

#### とできるようになったこと

- ・計算ができるようになった。
- ・九九ができるようになった。
- ・漢字の画数をたくさん覚えた。
- ・友達の発表に付け加えて発表することができるようになった。

#### +自分で決めたこと・取り組んだこと

- ・朝活で、他の人がしない所を自分で考えて掃除をした。
- ・社会の自学で、範囲を自分で決めて取り組んだ。

このような全校の場でも、進んで手をあげ自分の考えや思いを発表できる子供が増えてきました。まさに、時津東小が目指している子どもの姿がありました。当然、全員の手が拳がるわけではありません。しかし、この風土が少しずつ広がっていることをうれしく思います。

子供たちには、課題を振り返ることも大切ですが、自分の頑張りやよさを振り返り、自信を付け次へのエネルギーにしていくことを願います。

最後はいつものように、「絶対に事件・事故にあわないように、そして、怪我や病気に気を付けて、始業式の日にみんなが元気に東小学校に帰ってくるよ。」を約束して終わりました。

お世話になりました。よいお年をお迎えください。

### ありがとう！用務員さん



東小の野添用務員さんは、木工が得意です。九月には子供たちが木陰で涼めるようにとベンチを、最近では低学年の子供たちが黒板に書く時の助けになればと、一・二年生の各教室にベンチ型の文継ぎを作ってくれました。

た。おかげで、子供たちの活動の幅が広がりました。東っ子はたくさんの人に愛され、助けられています。感謝です。

特別支援教育だより

# めばえ

～特別支援教育が特別ではなくなる日を目指して～

令和6年 12月 24日  
時津町立時津東小学校  
特別支援教育コーディネーター  
文責 若杉 聡  
第7号

## 自己肯定感と自己有能感



先月のめばえで「自尊感情」とは、「自分は価値ある存在だと思う」ことで、子ども達が社会に順応する上で、欠かせないものとされていること、そして自尊感情は、「自己肯定感」と「自己有能感」によって育てられるとされている（「発達障害とその周辺の子ども達」尾崎洋一郎著より）と記しました。今回は「自己肯定感」「自己有能感」を育てるために、具体的にはどのようなアプローチが求められるのか考えたいと思います。

まず「自己肯定感」ですが、前述の著書の中では「できてもできなくてもあなたの全てが好きだよ。」と伝えること、「その子の長所を伸ばすこと」と書かれています。私見としては、プラス「学習に取り組ませること」も必要と考えます。小中学校で身に付けてほしい力を文科省が示し、これを受けた教科書会社が、学年ごとに、単元ごとに、各時間ごとに「何を」「どう」学ぶとよいか示しています。それが教科書です。各時間の取り組みは「既習の学習を生かしながら少しがんばればできる」内容となっています。この「少しがんばったらできた!」を繰り返すことも「自己肯定感」につながると考えます。さらに学習を重ねていくことは子どもの将来の進路を明るくすることにもなります。学習に関しては学校がリードしていきますが、家庭の方でも理解や意欲について声掛け、励ましが必要と考えます。



次に「自己有能感」についてですが、こちらは「周りに認められている。役に立っている。」と思うことですので、そういった経験を多く積み、「よくできたね。」ではなく「ありがとう。」との感謝の気持ちを伝え続けることだと考えます。学校では、全てのクラスでそうじ当番や給食当番、係活動があり、高学年となると委員会活動があり、「周りのためにがんばる場面」が多くあります。家庭においては、すでに取り組まれている家庭が多いと思われる「お手伝い」がこれにあたると考えます。ただ「お手伝い」だとかける言葉は「よくできたね。」になりがちですので、「お手伝い」を「役割分担」に格上げし、「ありがとう。助かった。」との言葉かけをしていってはどうでしょうか。



「順番通りにいけば、私たち大人が先に弱っていく。その前に子ども達が自立していくことを考えていくことが大切。」と保護者の方との面談の中でよく話しています。前号の繰り返しになりますが、「どのような場面でも」「どのような課題でも」「自分なりに取り組んでいく（≠良い結果を出す）」子ども達であってほしいと願っています。

ありがとう!